

プロジェクト単位の評価とプログラム (プロジェクトのパッケージ化)評価との比較(検討メモ)

基本的な方向(第4期基本計画)

政策課題解決型への転換

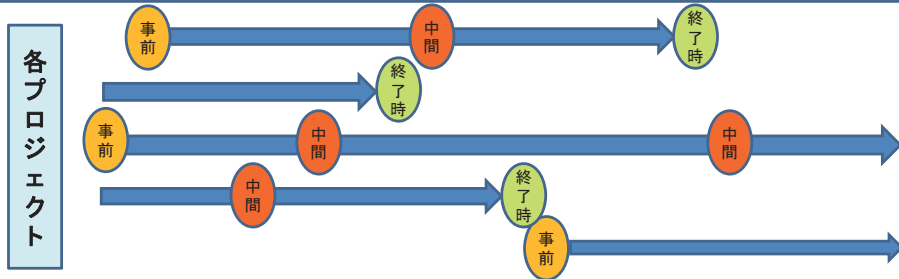
- ・長期的スパンで捉える必要性
- ・各プロジェクトの最適組み合わせ

プロジェクトのパッケージ化(関連付け)による
施策単位でのPDCAの構築

- ・プログラムとしての目標の明確化
- ・プロジェクトの位置付けの明確化と効果的・効率的な資源配分
- ・全体の共通したマネージメント・評価体制の構築

プロジェクト評価

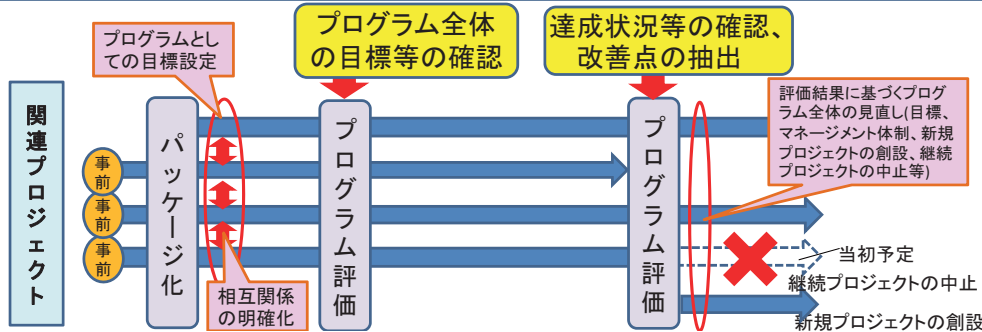
・各プロジェクトごとに目標を設定し、それぞれのスケジュールの中で評価を実施。
⇒上位施策に対する各プロジェクトの位置づけ(貢献度合い)及びプロジェクト間の関係が必ずしも明確ではない。その結果、各プロジェクトの総体としての効果が発揮しづらい。



プログラム(プロジェクトのパッケージ化)評価

プログラム評価導入に向けた手順

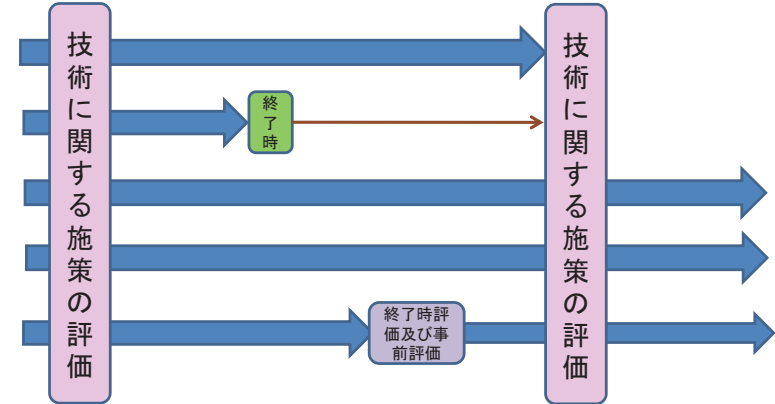
- ①関係するプロジェクト等をプログラムとしてパッケージ化(関連付け)。併せて、プログラムとしての目標を設定し、プロジェクト間の相互関係を明確化。
- ②最初のプログラム評価で、上位施策や他の施策等との関係に基づき、プログラム全体の目標、プロジェクト構成等の妥当性を確認。
- ③次回以降のプログラム評価で、マイルストーンに対する達成状況等を確認し、その要因等を把握・分析し、改善点を抽出。
- ④これに基づき、プログラム全体の目標やマネージメント体制等を見直し、プログラムを構成するプロジェクトの新設、中止等を判断。
- ⑤既存プロジェクトの中間評価及び新規プロジェクトの事前評価を可能な限りプログラム評価と一体的に実施。



(参考) 技術に関する施策評価の例

(「経済産業省における施策評価について」(経済産業省:平成23年10月11日第88回評価専門調査会)より抜粋)

- ・異なる年度に別々に行われていた関連するプロジェクトの中間・終了時評価を同一年度に束ねて実施。
- ・分野別の方向性を勘案しつつ、同様の目的を有するプロジェクトのまとまりを俯瞰し、各プロジェクトの相互関係を明確化。
- ・対象施策:「CO2固定化・有効利用分野」、「情報通信機器関連分野」、「宇宙プログラム」等



技術の関する施策・事業評価対象の例

No.	技術に関する施策	技術に関する事業	評価時期
1	CO2固定化・有効利用分野	二酸化炭素削減技術実証試験委託費	プロジェクト中間
		バイオ技術活用型二酸化炭素大規模固定化技術開発	プロジェクト終了時
2	情報通信機器関連分野	セキュア・プラットフォームプロジェクト事業	プロジェクト終了時
		次世代回路アーキテクチャ技術開発事業	プロジェクト中間
		情報センサー・ヒューマンインターフェイスデバイス活用技術の開発事業	プロジェクト終了時